



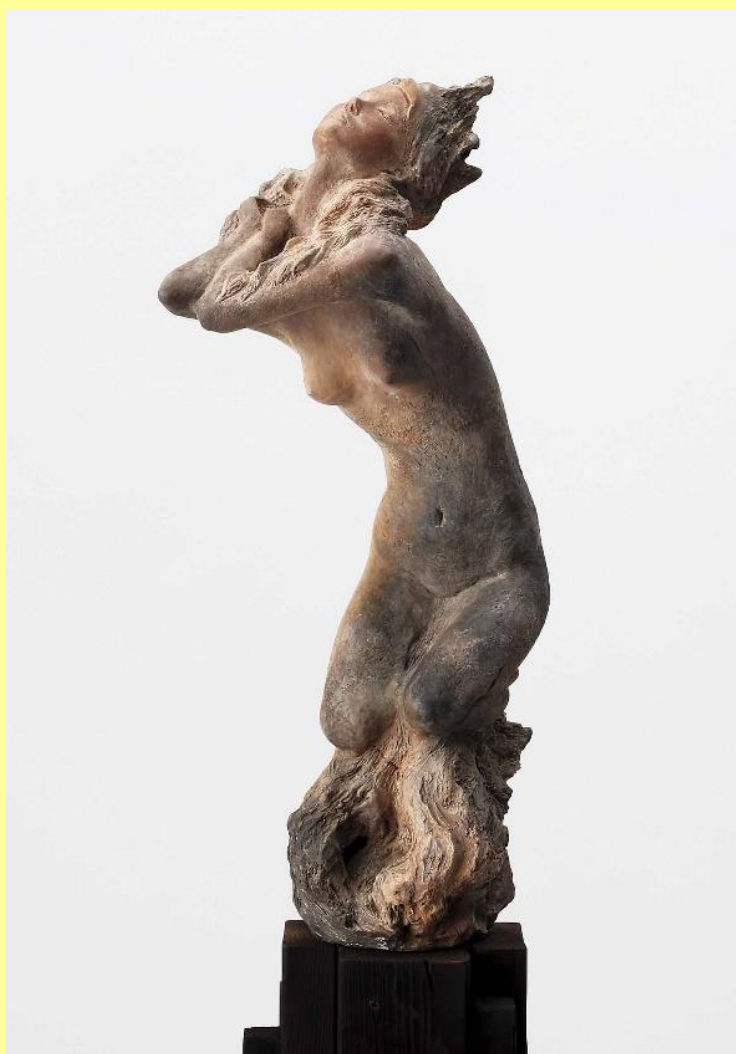
いずみ

No.71

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 41



《煙りゆく果て》

向川 未桜

(2 ページに「作者の言葉」)

自作自選 41

作者の言葉

煙が立ち昇ってゆく様というのは神秘的なものがあります。刻一刻と変化し、さまざまに形を変えて煙りながら、やがて立ち消えてゆく…。その姿は人の心や思いの形に通ずるものがあるように思います。だからこそ人は大切な人を思って細く伸びてゆく煙に手を合わせ、祈りを込めるのかも知れません。(1985年生まれ。札幌在住。全道展会友。)

タイトル：《 煙りゆく果て 》

制作年：2013 年

素 材：テラコッタ

サイズ：W30×H60×D30cm

所在地：作者蔵

連載 宮の森の四季 41

本郷新記念札幌彫刻美術館

彫刻を語ること

学芸員 山田のぞみ

この数年、彫刻に注がれる視線には、とりわけ熱いものがあるように感じます。彫刻を語るという、魅力的であると同時に困難な問題に立ち向かおうとする書き手たちが、美術系の雑誌や文芸誌、ウェブコラム等を舞台に活躍をみせています。そのテーマはたとえば、戦後の日本において彫刻とは何だったのかというもので、昭和の彫刻界を率いた本郷新を抜きにしては語り得ない問題です。

本郷新は、社会と密接に関わる主題を持つ作品を制作していたがゆえに、論争に巻き込まれることが多々ありました。形に託された何がしかを鑑賞者が受け止めて解釈する一すなわち言葉に置き換えるという営みは、ある意味では、常に「誤解」の可能性をはらんでいます。本郷新の作品をめぐる「形」と「言葉」の食い違いの歴史をひも解くことで、今の美術界においていとも簡単に「炎上」する造形表現とそれに対する批判、あるいは反論を客観的に理解する鍵が見つけられるかもしれません。

今年は本郷新の没後 40 年、来年は当館の開館 40 年と、記念の年が続きます。本郷新を語る言葉を紡ぐのに格好の時期を迎えました。



野外彫刻を文化財にする街づくりを

札幌市議会議員 石川さわ子（会員）

「実は私、こういうこともやっています」と差し出された名刺には「札幌彫刻美術館友の会」と書いてありました。恐縮ですが初めてお聞きする名前でした。でも、活動内容を伺ってすぐ、「ご紹介してください」とお願いしました。5年前のことです。

当時、私は札幌市北区選出の市議会議員として2期目初年の活動中でした。所属は「市民ネットワーク北海道」という政治団体で、「子どもたちに安心な食べものを」と願い、生活クラブで共同購入していた女性たちがカンパとボランティアで創り出した組織です。既成政党の「お任せ政治」ではなく、市民とりわけ女性の声を市政に反映し、政治に参画しようと、1991年から交代しながら市民の議席を確保しています。

いつも力を入れていることは、市民参加です。ですから、「歯ブラシやタオルを用いて手作業で野外彫刻を清掃する」という誰もが参加できる手法で、アートにつながるができる、日頃見るだけの彫刻作品に触れることができる、清掃して喜び合える友の会の活動に感動しました。しかし、札幌市が所有している415作品の野外彫刻は、公園や学校など、設置されている場所によって所管が様々であり、また、深刻な破損・劣化がすすんでいるとお聞きしたことから、議会の場で質すことにしました。

なかでも1952年に設置されたコンクリート像《よいこ つよいこ》は塗装が剥がれて内部がむき出しで、一刻を争う状況でした。折しも、像が設置されている円山動物園正門前のロータリー再整備事業を実施する予定であり、像を移設する際に補修を行うと答弁がありました。また、「彫刻の診断、評価、修復等の一元化については多くの課題があり、悩ましい問題と認識している。しかし、彫刻の損傷をそのままにしておくことは決して好ましいことではない。財政状況を勘案し、所管部局と連携しながら、損傷が目立つものから一步一步着実にすすめていきたい」との答弁には、行く先が少し明るく照らされた思いがしました。

それから約3年後の2019年度予算で、市が所管する野外彫刻の設置状況及び安全性の調査として野外彫刻作品保全調査費1,600万円が初めて計上されました。日程等が確保できなかった高所点検や新たに判明した作品の調査等は20年度に持ち越されましたが、415作品の点検結果が管理台帳化されました。調査結果が活かされ、野外彫刻を保全するための取り組みがすすむことを期待します。

今後も、札幌市の最も身近なパブリックアートである野外彫刻を文化財として保全し、いつでも芸術作品として鑑賞できるよ

う、市民とともに補修・保全の管理体制をつくることを提案していきます。

美術館所蔵資料の公開準備—本郷新研究の深化のために

山田のぞみ

(本郷新記念札幌彫刻美術館学芸員)

資料は活用できる状態にあってこそ意味がある。この考えのもと、彫刻美術館では友の会やボランティアの協力を得て2017年12月から文献資料の整理を集中的に行ってきました。その成果が徐々に形を表しつつあります。

本郷新は、50冊を超えるスクラップブックを残しました。彫刻や芸術、時には趣味の釣りにまつわるあれこれなど、自ら書いた原稿や、これと思った新聞記事を切り抜いて保管しています。これらの文献資料の中から本郷新が著した文章だけを抽出した紙ファイル「本郷新スクラップ」6冊が彫刻美術館と友の会ボランティアの手により、かつて制作されました。現在、当館2階の展示室でこのファイルを公開しており、閲覧が可能です。

現在進めているのはこれら6冊のファイルに収録された文章の全文をOCR（文字認識）ソフトと手入力の併用によってデジタルデータ化する作業です。データ化することで、作品のタイトルや、「平和」というキーワードで検索すれば、関連する記事に瞬時にたどり着けるようになります。この利便性が確保されれば、本郷新の作品研究は格段に進展します。データ化の作業は今年、本郷新の没後40年、彫刻美術館開館40年にあわせて、データベースや書籍という形での公開、閲覧を視野に入れた活動でもあります。

現段階では、スクラップブックの目次と、紙ファイル6冊のうち1冊目の終わりに差ししかかっているところです。パソコンで本郷新の文章を入力

するだけでなく、入力されたデータを校正する作業も並行して行っています。道のりは長いですが、本郷新研究の深化のためにはゆっくりでも着実に、歩を進めていく意味のある活動だと思っています。

一方、彫刻美術館に所蔵される図書は、ざっと4,000冊。その本、ほぼすべてに、背番号が付けられました。それによって、検索用のリストをもとに読みたい本を簡単に探すことができるようになりました。まず、パソコン上で本の一覧データ（Excelファイル）を開き、探したい作家名や展覧会名を入力します。たとえば、モエレ沼公園を構想した世界的彫刻家、イサム・ノグチ。1978年、98年、2005年に開かれた大規模な展覧会の図録が、彫刻美術館に所蔵されていることがリストからわかります。探し当てられるのは、検索する語句が図書のタイトルに入っているもののみという限定的なものではありますが、リストに書かれた番号をたどれば、図書館で本を探すのと同じ要領で、本棚の図書にたどり着くことができます。

現状では、整理済みの図書のごく一部を、4月から11月は毎週水曜日に、12月から3月にかけては毎週土曜日、当館の展示室で図書情報コーナーとして公開している段階です。図書のさらなる公開に踏みきるには、閲覧希望図書の探索や見守りを行う体制の整備が不可欠です。

文章の打ち込み作業、校正、図書情報コーナーの当番など、資料公開にまつわる活動に関心をお

寄せいただけましたら美術館、友の会にご一報ください。彫刻美術館は、所蔵資料がより多くの方の目にふれ、ひいては本郷新の研究がさらに深められることを目指しています。

医療雑誌「ケア」連載

「さっぽろ野外彫刻美術マップ」終了

2年間で彫刻 120 点余を紹介



友の会のスタッフが北海道医療新聞社の医療雑誌「ケア」に2018年4月号から連載していた「さっぽろ野外彫刻美術マップ」がこの3月号で終了した。2年間にわたり全24回の連載で120点余の彫刻を紹介した。毎回、取り上げる地域の選定から、掲載彫刻の選別、解説文の執筆、校正、写真撮影を締め切りに追われながら無事終了した。スタッフの中から2人に「あとがき」を寄せてもらった。

解説文作成「秘話」

高橋 淑子（解説文担当）

知っているようで意外と知らなかった札幌の野外彫刻について毎月追われるように原稿を書いた。作者、題名、設置場所…。読者に散歩してもらう企画なので正確さが要求される。あらかじめ、掲載を企画した作品が、写真撮影担当の大内さんから「確認できない」「雪に埋もれている」などの情報が届くと、選定は一からやり直し。幸い、載せたい彫刻は数多くあったので代わりの作品を選ぶのには困らなかった。むしろ、数点に絞ることに苦労したと言える。

たたき台の原稿を作成し、編集委員で検討してみると、彫刻の見方の違いも浮かび上がる。「ふっくら」「躍動感」など形容詞が飛び交い、果ては彫刻に対する好き嫌いまで議論しながら仕上げていく。作者については、どこまで経歴を載せるか、生没年のわからないことが課題に。改めて、友の会として野外彫刻について今後に残すべき資料を整える必要性を感じ、有意義な機会を与えてくださった「ケア」の担当者、鎌田竜也様に感謝します。

彫刻、聞くと見るでは…

大内 和（写真担当）

趣味で写真と戯れている程度だったのに、ひょんなことで冊子に掲載する写真撮影の役回りとなり緊張感が走った。しかし、何とか120体ほどの彫刻の写真撮影ができた。貴重な体験だった。その中から印象に残ったエピソードを一。

まず、ガイドブックでは3体でワンセットになっているはずの彫刻が現場に行ってみると1体しかなく、びっくり。2体は老朽化して撤去されていた。（百合が原公園）

晴天の日に撮った公園の木陰にある彫刻は葉の影が全面に写って失敗。曇天の日に再度撮り直しに行く羽目に。また、冬になって撮りに行ったら作品がすっかり冬囲いされ、絵にならず、関係機関から拝借した。

さらに、撮影ポイントが限られているのにバックに電柱などの邪魔物が入り、設置者を恨んだ。クリスタルを使った作品は反射面の処理に一苦労。設置から長い年月が経ち、周囲の様子が変わって作品を見つけるのに走り回ったことも思い出となった。

2020 年 友の会新年会

五輪マラソン・競歩コースの彫刻をアピール

フルート、アコーディオン演奏で盛り上げ



彫刻美術館友の会の 2020 年新年会が 2 月 11 日、札幌・中央区の「すみれホテル」で開かれ、来賓、会員ら 40 人余りが参加、新年度への抱負などを語り合いながら今年 1 年の活動を誓い合った。



冒頭、挨拶に立った橋本信夫会長は「今年は札幌でオリンピックのマラソンと競歩が大通公園を中心に行われるが、コース周辺には数多くの彫刻がある。友の会としては国内



外から訪れる人たちにこれから作品を紹介、彫刻の似合う街・札幌を世界

に知ってもらおう」と訴えた。この後、コース沿いにある彫刻

作品を地図上で一覧できるホームページを紹介しながら今年の重点活動への取り組みを呼びかけた。

恒例の特別講演では彫刻家の唐牛幸史さんが「プロの彫刻家として思うこと」と題して講演、本郷新や恩師からの教えを通して築き上げた彫刻家としての芸術論を展開、スライドを使いながら自作の作品解説を行った。

高橋大作副会長の乾杯の挨拶で会食に入り、新たに会員になった人などからのテーブルスピーチでにぎわった。さらに、林雅子さんのアコーディオン、桜田信明さんのフルート演奏があり、最後に



札幌彫刻美術館友の会 2020 年度総会

と き：2020 年 5 月 10 日 13：30～

ところ：カナモトホール（札幌市民ホール）旧わくわくホリデーホール

全員合唱で「鐘の鳴る丘」「早春賦」「学生時代」
を歌い上げて幕を閉じた。

春のデビュー目指して

彫刻解説の仕方を勉強

自作メモ片手にガイド



友の会の彫刻清掃と並んで大事な彫刻作品の解説ガイドスタッフの輪を広げようと昨年から開かれている彫刻学習会。1月半ば、第4回学習会が開かれ、新入会員らがシーズンのデビューを目指して研修を積んだ。

この日は友の会制作のDVD「時代を映す彫刻」を見た後、藤倉まゆみさんが大通公園に立つ「若い女の像」(佐藤忠良)、原田照子さんが「有島武郎文学碑」の作品解説をした。それぞれ自分で作成した原稿をもとに作家像にまで踏み込んだ奥深い解説を行い、春のデビューへの意欲をのぞかせていた。

ゆきあかり in 中島公園

幻想的な世界を演出



山鼻小児童らが参加

札幌・中島公園の冬の風物詩「第14回ゆきあかり in 中島公園」が2月7から9日まで催され、友の会も例年通り参加、協力した。

今年も山鼻小学校の3年生73人がスコップを片手に雪穴掘りをし、あらかじめ学校の絵の時間にそれぞれの願いを書いた「紙コップ」を置き、夕方になってろうそくに火を灯した。

暮れなずむ会場にたくさんのアイスクャンドルや紙コップの灯が美しく並び、幻想的な世界を描いて来場者の目を楽ませた。

会員の井尻哲男さんがリーダーとなり、厳しい寒さの中でイベント盛り上げた。

五輪マラソン・競歩コース

沿線彫刻をHPで発信

道新でも報道

この夏、札幌で行われる五輪マラソン・競歩コースの沿線に約80点の彫刻があり、これら札幌の文化遺産を選手や観客にアピールしようと橋本信夫会長らが作品を地図上で確認できるホームページ(HP)作りやこれら彫刻の清掃計画などを練っている。

コース沿線の大通公園には《泉の像》(本郷新)、創成川公園には《生誕》(安田侃)のほか、《クラーク博士像》(田嶋碩



朗、北大構内)、《牧歌》(本郷新、JR駅前)など北海道出身の彫刻家の佳作が並ぶ。

これらの作品をコースを示した地図上に落とし、どこにどの作品があるかを一目でわかるようにした地図をHPに載せる。

この動きを北海道新聞が「沿道の彫刻 世界お出迎え」の見出しで報じた(2月14日夕刊)。



記事では友の会の動きのほか彫刻美術館が五輪期間中を挟んだ4月29日から9月27日まで同館で本郷作品の企画展を計画していることも伝えた。

事務局日誌▼2019年12月12日
＝第9回定例役員会(エルプラザ)
新年会日程協議ほか▼17日＝札幌市文化局と懇談(市役所)彫刻補修と調査の進め方など意見交換▼2020年1月16日＝第10回定例役員会(エルプラザ)雑誌「ケア」新年度企画、会報71号企画▼23日＝第4回彫刻学習会(エルプラザ)終了後「ケア」編集会議▼29日＝芸術の森美術館懇談会(芸術の森美術館)彫刻作品保全について意見交換▼2月11日＝友の会新年会開催(札幌・すみれホテル)▼20日＝第11回定例役員会(エルプラザ)▼3月12日＝定例役員会(エルプラザ)中止

編集後記▼新型コロナウイルス感染騒動はまさに「見えない敵の恐怖」にさらされた思いがしました。会の活動にも定例役員会の延期などの影響が出ました。この会報が出来上がるころには何とか終息していれば良いのですが▼そんな中、今号では美術館の山田学芸員に「宮の森の四季」と寄稿原稿のダブルヘッダーをお願いすることになりました。多忙の中、締め切りに間に合わせていただきました。
(大内)

札幌彫刻美術館友の会
会報「いづみ」 No.71
2020年4月1日発行
発行人 橋本 信夫
編集者 大内 和
(札幌市清田区清田5-4-6-30
011-884-6025)
印刷 山藤三陽印刷

会報「いづみ」71号 目次

自作自選41 《煙りゆく果て》	向川未桜	・・・ 表紙
作者の言葉	・・・	2
宮の森の四季41「彫刻を語ること」	山田のぞみ	・・・ 2
風見鶏「彫刻を文化財にする街づくり」	石川さわ子	3
寄稿「美術館所蔵資料の公開準備」	山田のぞみ	4
リポート「野外彫刻美術マップ連載終了」		5
友の会ニュース「2020年友の会新年会開催」	・・・	6
友の会ニュース		7
彫刻学習会／ゆきあかり in 中島公園／五輪コース彫刻		
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか	・・・	8

本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本 館

■所蔵品展

開催中～6月21日[日]

大通公園の《泉の像》や《わだつみのこえ》で知られる、本郷新が手掛けたブロンズ彫刻やテラコッタ、木彫など、代表作から隠れた優品を多数展示。

■わくわく★アートスクール2020作品展

6月27日[土]～7月16日

木

記念館

■本郷新のレガシー「五輪の花束」4月29日[水]～9月27日[日]

札幌五輪開催に向けて整備された真駒内五輪大橋を飾る本郷新《花束》と時を同じくして設置された山内壮夫、佐藤忠良、本田明二の各作品の魅力と意義を再考し、芸術の果たす社会的な役割を探る。

■「本郷新の歩みと芸術」

開催中～4月22日

水

■図書・情報コーナー

本郷新記念札幌彫刻美術
館

札幌市中央区宮の森
4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中

です！ご覧ください

<https://sappor>

[o-chokoku.jp](https://sapporo-chokoku.jp)